

2013.3.1

No.14

興道東部保育園

米沢市下花沢3丁目10番9号

TEL 0238-23-6624

みんなの もうひとつの おうち



アレックスさんと
英語であそぼう!!

今年度は、国際交流協会のアレックス・シャーフさんをお招きして、毎月1回英語を使ってあそぶことを楽しんできました。英語で色や果物、動物などを言うてみたり、英語の曲に合わせて踊ったり、ゲームをしたりと楽しい内容であり、子どもたちは毎回アレックスさんと会うことを楽しみにしていました。

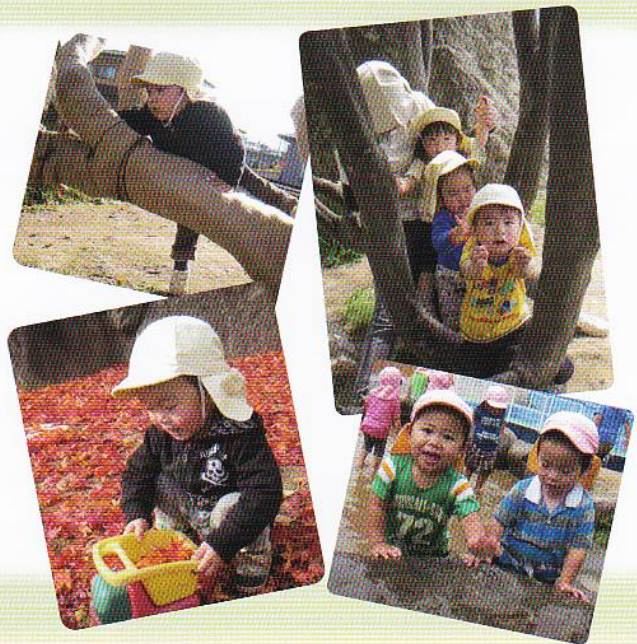
アメリカ民謡の「ホーキ・ポーク」の曲に合わせての踊りは、特に子どもたちに大人気で、毎回踊っているうちに振り覚え、曲が始まると自然と身体が動き出すようになるほどでした。英語でじゃんけんは、「シザー、ペーパー、ロック」などとアレックスさんと大きな声で言いながらじゃんけんを楽しみました。じゃんけんに勝つとアレックスさんとタッチできることが嬉しくて、いつものじゃんけんよりも盛り上がりました。

英語であそんだ後は昼食を一緒に食べ、質問するなどして会話がはずみ、それもまた楽しみの一つでした。また、アレックスさんには、クリスマス会やもちつき会の行事にも参加していただき、クリスマス英語の絵本や歌にふれることもできました。母国語でないことは英語にふれる経験は、想像する力、表現する力を養うことになりました。これからも異文化にふれる機会を保育に取り組んでいきたいと思えます。

「美しい園庭の四季に見守られて」

園庭は、サッカーや50メートル走ができる広さと二つの小山があります。一つはモコちゃん山、もう一つはヒロちゃん山です。春は山菜が採れ、夏は池にアメンボやカエルが泳いでいます。秋は真っ赤に紅葉した木々が美しく、冬はそりすべりが楽しめます。季節の変化を、四季を通して感じられる美しい園庭で思う存分に遊びます。

ヒロちゃん山には1歳の子が大好きな広い斜面があります。春にはまだ登れなかった子も、秋には自分の力で頂上まで登れるようになり、お尻すべりを楽しみました。斜面だけでなく、石の階段や庭石の一番上に登ると下にいるお友たちに手を振るのが楽しい遊びでした。四季の変化とともに、子どもたちの成長も見守ってくれる園庭です。幸せな環境に感謝します。



みんなが大好きな園長先生

職員

窪園長先生と一緒に仕事をさせて頂き、約十数年のおつきあいにあります。その間ずっと変わらず温厚で、ユーモアがあり、よく冗談を言って笑わせて下さいます。またおしやれでセンスもよく着こなしていますが、一番似合うのは衣(法衣)でしょうか?みんなその姿に見とれてしまうほどです。そしてなんといいとも一番は子煩悩で子どもたちから好かれ、私たち職員も気軽に声をかけられることです。保育園のお父さんのような存在になっています。

雲の上の暮らしつつも、森の奥に住んでる。

二宮 敏明さん(保護者)

東部保育園には、長女・次女合わせて7年間お世話になりました。その次女も卒園です。味わいのあった旧園舎での沢山の楽しい思い出、そして新園舎ではお友だちも増えて素敵な思い出を作ることができました。園長先生をはじめ職員の皆様の温かくアットホームな育みによって、生き生きと充実した時間を過ごせましたこと、とても感謝しております。また、保育園生活を通して親として成長させて頂いたと感じています。

職員

園長先生が力を尽くされたおかげで立派な新園舎も建ち、毎日子どもたちのひのひと過ごしています。普段は物静かな園長先生の時々言って下さるジョークが大好きです。日々大きな心で私たちを見守って下さりありがとうございます。

お釈迦様を大事にする人。笑顔がきれい。

釜田 敏浩さん(保護者)

窪園長には七年間お世話になり、菜奈は六年間、上の子どもは三年間ご指導を頂きました。一番の思い出は今年の運動会の役員の出し物で窪ザイルをやらせて頂いた時です。ちょっとふざけた内容にも快く応援して貰い、保護者、子どもたちにも喜んで頂き、私のいい加減な態度にも、冗談まじりで返してくれる明るい園長先生。子どもの事を第一に考えてくれる真面目な園長先生。窪さんが園長先生で本当に良かったと思います。これからも、体に十分気を付けて、頑張ってください。

渡部 亜由美さん(保護者)

「あつ園長先生!!」と娘が走っていつ園長先生の大きな背中にやさしく、ほんとたたき、「さようなら」とあいさつした後、笑顔でやさしく応えてくれた園長先生。私に娘が「怖い顔してない、やさしいから大好き」と話してくれました。遠足や運動会、いろいろ発表会などで園長先生の話を聞くと、ユーモアがあり、聞いている私たちも、自然と顔が和らいでしまうそんな先生だなあと感じました。

おもしろい人。

(誕生会の時、ほくたちのケーキを食べようとするから)

職員

園長先生が現れると、子どもたちが「園長先生!!」と周りを囲み、職員の中にも和やかな空気が漂います。園長先生の雰囲気私たちが優しい気持ちにさせてくれます。そして私が何より嬉しかったのは、男同士でお話しができることです。真剣に私の話を聞いて下さったり、時には冗談を交えながら笑わせて下さったりと、園長先生のおかげで楽しく仕事をすることが出来ます。

やさしくて、お経が上手。

松山 俊幸さん(保護者)

窪園長先生には子どもが入園した時からお世話になっています。一度も怒った顔を見たことがないのでとてもやさしいイメージが強いです。運動会の応援合戦で園長先生の物真似をした時、「松山さん窪ザイルありがとうございます。」と言ってくれた言葉が嬉しかったです。自然と感謝の言葉が出るのに感心しました。また園庭に坐禅を体験させるのはすごい事だと思います。精神面で強くなるような気がします。これからも健康に気を付けて園児の為に頑張ってください。

地元の食材を食べて 心も体も元気いっぱい

春にはよもぎを摘んでよもぎ団子をつくり、ふきのとうを天ぷらにしたり、ふきやたけのこをとって煮物にしたり、たけのこご飯にしたり、すべて園庭から収穫して春の恵みを香りも一緒に味わいました。

夏と秋には畑で野菜を収穫してカレーライスやスープにして食べました。秋は落ち葉を集めて園庭で焚火をしてさつま芋の焼き芋をしました。熱々ほかほかの焼き芋は甘くてみんながおいしい顔になりました。秋に干した柿を毎日眺めては「甘くな〜れ」と声をかけ続け冬にみんなで食べた干し柿の甘かったこと。一年を通して収穫する楽しさとみんなで食べることの喜びを味わいました。食は生活の太い柱、豊かな食生活を保育の中心にすえて、丈夫な体と健康な心が育つことを願って保育しています。

友だちや保育者と食卓を囲んでおしゃべりをして食べる喜びを味わう生活は宝物です。東部保育園で、美味しい物を沢山食べて心も体も大きく成長している子どもたちです。



みんなで食べる昼ごはん



「職員給食をはじめて」 坂野 早恵 (栄養士)

子どもたちにとって東部保育園は「もうひとつのお家」です。同じご飯を子どもも職員も家族のように会話しながら食べるのは、保育園でも家庭と同じように考えていた職員が望んでいた事です。実際に職員給食が始まると、子どもたちも「今日は誰と食べられるかな」と期待しているのが分かり、座る場所を探していると、「こっちに来て」と誘ってくれます。栄養士としては、一緒に食べながら子どもの生の反応が分かり、献立作成や調理に役立ちます。「良く遊んだ日の汁物はお代わりが進むなあ」「お肉やお魚のおかわりがもっとあるといいな」など、子どもの食欲や好みも感じながら、季節感のある美味しい食事を作っています。

「職員給食」 奥山 彰人・寛子 (保護者)

聖子は1才の入所時には重症のアトピー性皮膚炎で肉、大豆他様々な食物アレルギーがありました。しかし、保育園で作って頂いた除去食をモリモリ食べて元気になり、アトピーの方も完治しました。今ではほとんど何でも食べられ、ランチルームで職員の皆さんと食べる給食を楽しみにしている聖子です。そして小学校の給食も楽しみです。ご配慮頂いた先生方、本当にありがとうございました。



「職員給食」 藤戸 孝司 (主事)

「こうじ先生一緒に食べよう！」「これ美味しいよ！」「僕全部食べられたよ！」いつものランチルーム、元気な声と笑顔が溢れます。食育の一環としてスタートした職員給食ですが、子どもたちが以前にも増して活き活きとした笑顔に溢れているのに気が付かれます。その表情の変化からは、子どもたちと職員とを繋ぐ「親近感」「信頼感」の表れが実感として窺えます。

ある食事中の会話です。「昔の外国では、牛乳屋さんが牛を引いて家を回ったんだよ。」「お乳を絞るの？」「そうだよ。するとね、後ろから赤ちゃん牛がついて来るんだって。なぜかな？」「あ、お母さんのお乳は赤ちゃんのものだもんね。でもお母さんのお乳取られて赤ちゃんかわいそう。」「そうだね。でも食べ物実は全部もらい物なんだよ。いただきます・ごちそうさまはありがとうございますのご挨拶なんだよ。」「このお魚も赤ちゃんいるかもしれないね。」「うん、そうだね。ごちそうさまでした。」「ごちそうさまでした。お魚さん、ありがとう。」ランチルームでの子どもたちの笑顔と何気ない会話からは、食事は楽しいことであり喜びであると改めて感じます。

もうすぐ1年生



ゆり組(年長児)になると、就学前の豊かな活動ができるように、一人ひとりの学習机が備わっている2階の三つ葉の部屋で過ごします。自分だけの机のプレゼントに子どもたちも大喜びです。「すごい！学校みたいだ！」「背中を伸ばして座るんだよ」と、さらに就学への期待が膨らんでいます。机の引き出しに筆入れとノート、個人のお物を入れて、いつでも文字の練習をしたり、または友達とゲームを楽しんだり、卒園製作に取り組んだり、恵まれた環境のなかで、小学校への期待を胸に充実した毎日過ごしているゆり組のみんなです。

みんながお昼寝をしている時間帯に、もう昼寝をしないゆり組さんに職員が毎日交代で卒園メッセージを贈っています。数や文字を使ったゲームや絵本を読んで、仲間の大切さやチャレンジする心を伝えたりしています。園長先生は坐禅を教えてくださいました。卒園までのゆり組さんとの残された時間を大切に過ごして小学校へ送りだします。もうすぐ1年生です。

「よりよいサポーターであるために」 はなの会々長 本田公祐

はなの会は、職員の皆さんが企画される行事のサポート役をメインに活動を行ってまいりました。

スポーツの世界では、選手が競技すること、そして成長する事を優先に考え、周りの人間は関わって行こうという意味で「プレイヤーズファースト」という言葉が使われます。我々保護者の役割もまた、同じだと思っています。はなの会は、そんな子どもたちの思い出に残る行事に、一輪でも多くの花を添えられるサポーターとして、今後も賑やかに、時には過激に(?)活動を行って行っていただきたいと思います。

これまで4年間、はなの会の会長役を大変微力ながら務めさせていただきました。保護者の皆様、職員の皆様、そして何より子どもたちに、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



編集後記

平成24年度の保育も残り少なくなりました。今年度も保護者の皆様に園運営の御理解と御協力をいただきました。また、御近所の皆様にも温かく見守ってくださり感謝申し上げます。今年度の情報誌も子どもたちの笑顔で楽しい内容になっていますので御覧になり御意見などを頂戴したいと思います。最後になりましたが、情報誌発行にあたり、原稿、写真等で御協力いただきました皆様に感謝申し上げます。